

令和4年度 大阪市立平野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和4年度 大阪市立平野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	理科	国語	数学	理科
3 年	学校	124	65	47	43	6.5	14.7	5.3
	大阪市	—	66	50	46	5.5	12.2	4.4
4月19日	全国	—	69.0	51.4	49.3	4.3	10.8	3.4

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	121	50.4	47.7	53.0	54.6	51.0	15.4	7.0	11.8	6.1	7.0
	大阪市	—	53.4	54.7	54.9	55.8	53.7	11.9	4.3	9.4	5.3	6.8
9月6日	大阪府	—	53.8	55.4	56.0	55.9	54.2	12.1	4.6	9.6	5.8	7.1
2 年	学校	133	54.5	41.2	50.7	49.8	55.7	12.6	8.9	17.1	9.3	7.8
	大阪市	14648	58.7	44.6	48.1	52.6	55.2	8.6	5.9	15.8	8.3	6.4
1月11日	大阪府	57908	59.6	44.4	49.0	53.1	56.1	8.5	6.3	16.1	8.7	6.5
1 年	学校	134	55.5	50.0	53.1	57.0	54.5	13.4	4.7	7.1	4.1	6.2
	大阪市	14750	57.8	51.8	54.2	55.0	58.3	12.1	4.9	7.6	5.3	5.1
1月11日	大阪府	57989	58.6	—	55.0	—	59.1	12.5	—	8.0	—	5.3

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	118	101.7	105.3	153.1	99.2
	10月18日 大阪市	—	102.8	105.4	152.4	96.6

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

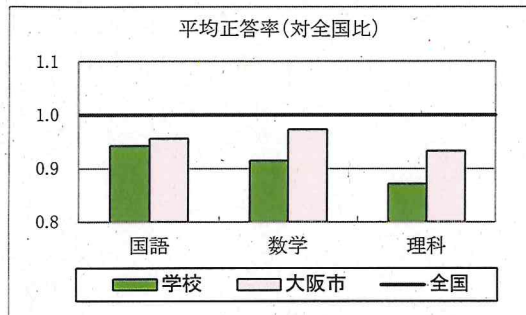
学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	114	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2 年 男 子	学校	28.80	23.14	36.70	49.42	70.52	—	8.14	195.81	18.99	45.80
	大阪市	28.88	26.10	42.66	51.66	77.74	—	8.08	196.13	19.98	49.80
	全 国	28.99	25.74	43.87	51.05	78.07	—	8.06	196.89	20.28	41.04
2 年 女 子	学校	24.83	22.58	43.44	45.25	58.55	—	8.85	174.40	14.57	50.43
	大阪市	23.08	21.91	45.40	46.34	51.72	—	9.07	166.28	12.26	47.00
	全 国	23.21	21.67	46.07	45.81	51.60	—	8.96	167.04	12.45	47.42

令和4年度 大阪市立平野中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

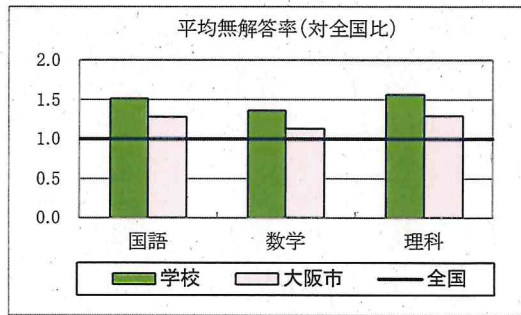
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)		
	国語	数学	理科
学校	65	47	43
大阪市	66	50	46
全国	69.0	51.4	49.3

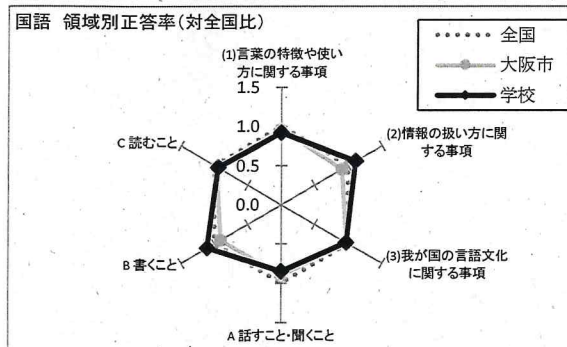
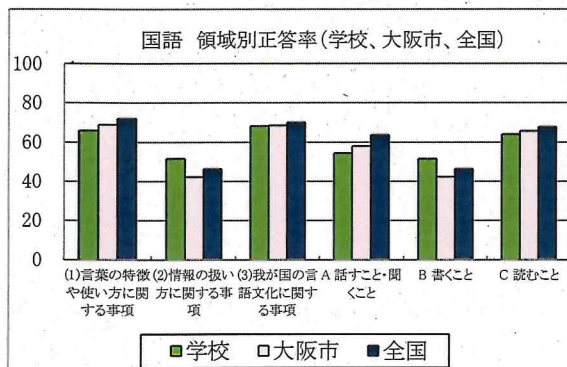


	平均無解答率(%)		
	国語	数学	理科
学校	6.5	14.7	5.3
大阪市	5.5	12.2	4.4
全国	4.3	10.8	3.4



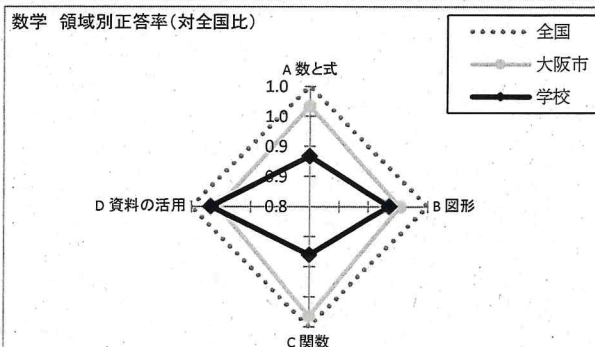
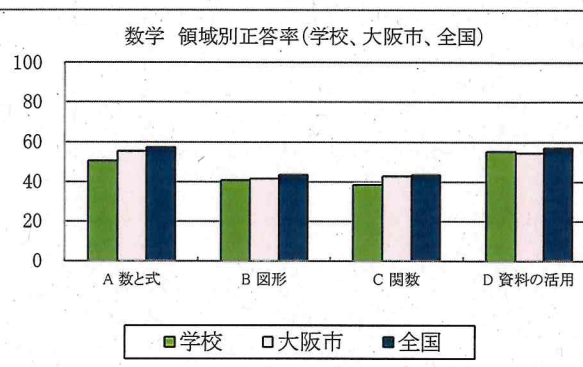
【 国 語 】

学習指導要領の 内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	6	66.1	69.0	72.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	51.6	42.2	46.5
(3)我が国の言語文化 に関する事項	3	68.3	68.8	70.2
A 話すこと・聞くこと	3	54.6	58.0	63.9
B 書くこと	1	51.6	42.2	46.5
C 読むこと	2	64.1	65.8	67.9



【 数 学 】

学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	50.7	55.5	57.4
B 図形	3	40.8	41.6	43.6
C 関数	3	38.4	42.8	43.6
D データの活用	3	55.2	54.5	57.1

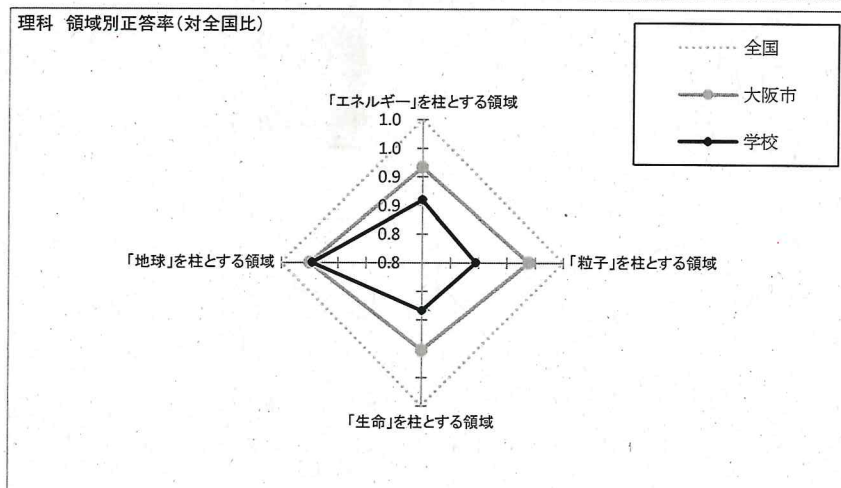
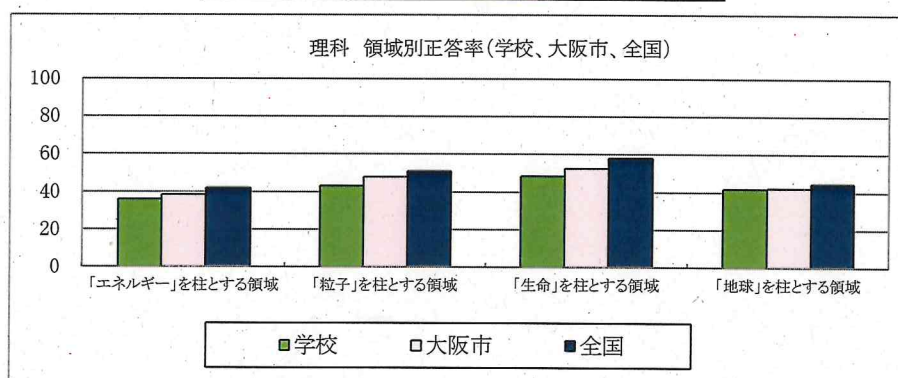


令和4年度 大阪市立平野中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
「エネルギー」を 柱とする領域	6	36.0	38.4	41.9
「粒子」を柱とする 領域	5	43.0	47.8	50.9
「生命」を柱とする 領域	5	48.3	52.3	57.9
「地球」を柱とする 領域	6	41.9	42.1	44.3



令和4年度 大阪市立平野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

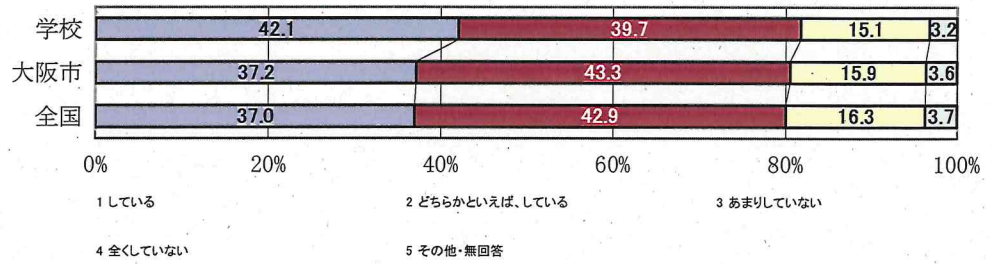
生徒質問紙より

□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8

質問番号
質問事項

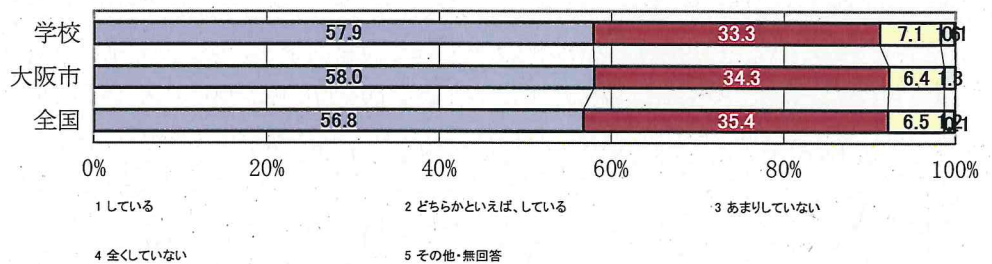
2

毎日、同じくらいの時刻に寝て
いますか



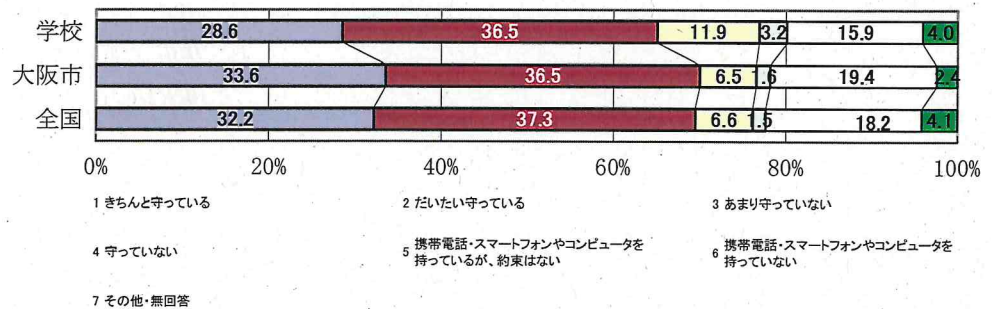
3

毎日、同じくらいの時刻に起き
ていますか



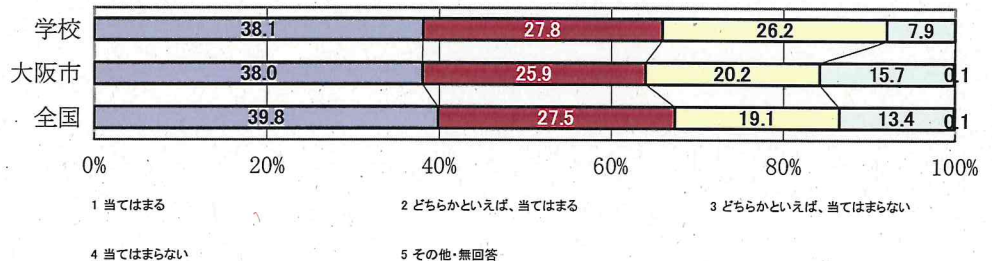
4

携帯電話・スマートフォンやコン
ピュータの使い方について、
家の人と約束したことを守って
いますか



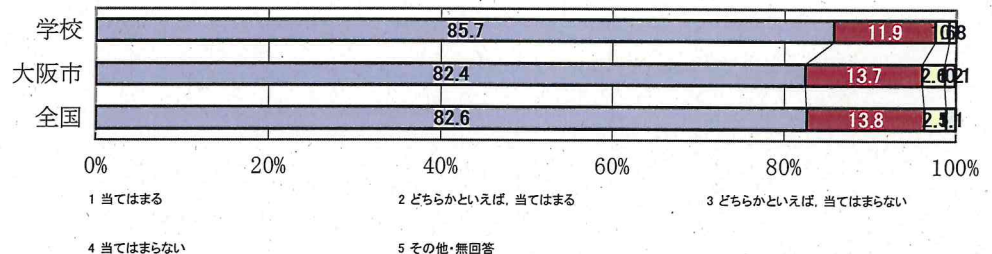
9

将来の夢や目標を持っていま
すか



13

いじめは、どんな理由があつて
もいけないことだと思いますか



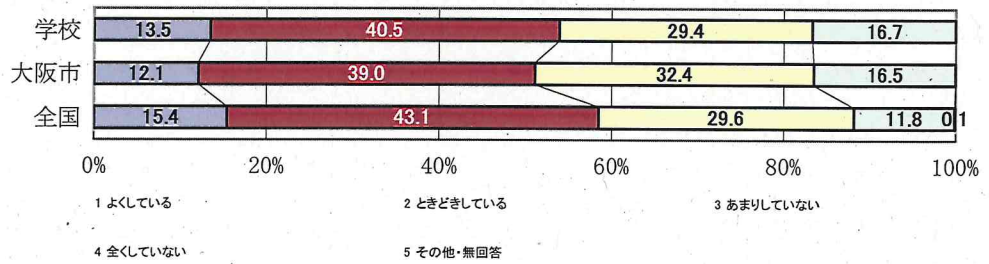
令和4年度 大阪市立平野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問紙より

質問番号
質問事項

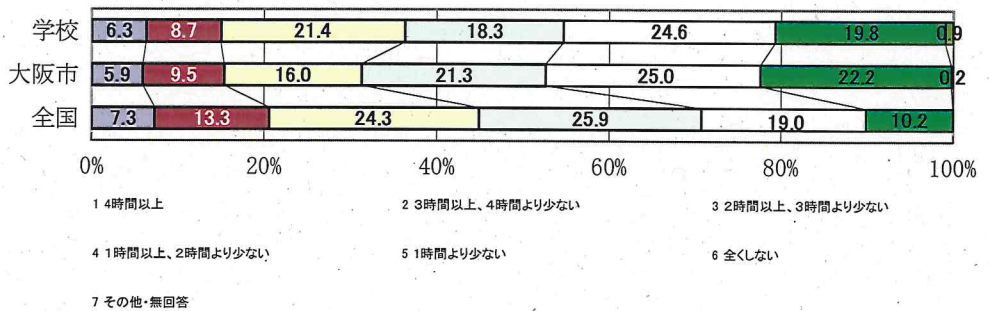
20

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)



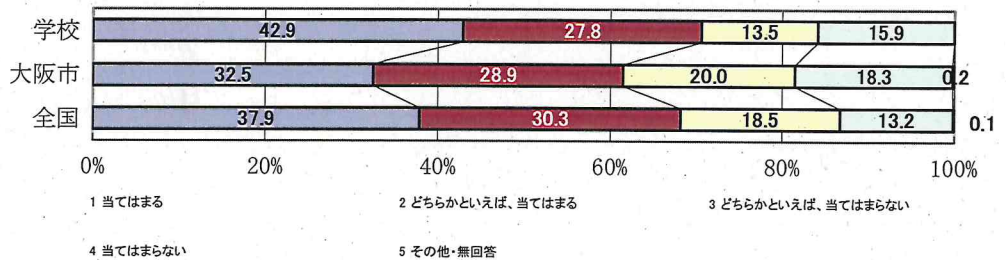
22

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



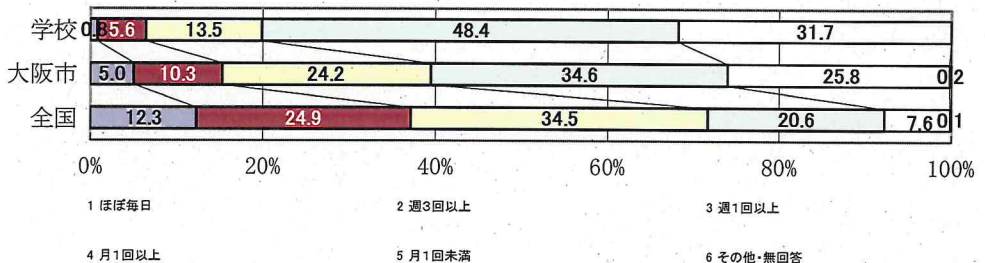
26

読書は好きですか



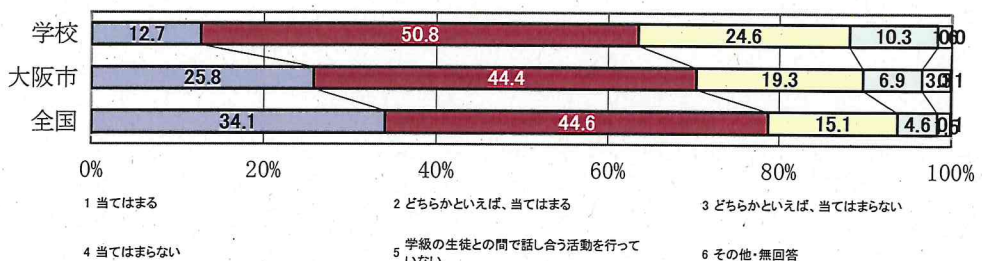
33

学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか(インターネット検索など)



43

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか



全国学力・学習状況調査結果

【成果と課題、今後に向けて】

<国語>

「話すこと・聞くこと」に関わる事項に課題があり、「スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかとそのように話す意図を書く」の問題の正答率が低く、無回答率も高かった。話す際に、聞き手に伝わりやすい表現や伝える順番を考えて話すことに苦手意識を持つ生徒が多い。コロナ禍の中、スピーチや話し合い活動などの「話すこと・聞くこと」の活動が制限されたこともあり、十分な経験を重ねられていないことが理由の一つとして考えられる。また、漢字の書き取り、行書についての問題の誤答の割合も高いため、引き続き反復練習等で基礎学力の向上に努める。資料を読んで、必要な部分を引用して記述する問題等、「書くこと」に関わる事項の正答率は高かった。1年生時から小論文や意見文の提出、添削を継続してきた効果があらわれている。知識の定着に向けて演習を継続するとともに、「話すこと、聞くこと」の学習において、一人一台端末を活用し言語活動の場面を増やす。「読む」、「書く」、「話す」、「聞く」の活動をバランスよく授業に配置し、生徒の興味関心を向上できるよう工夫する。

<数学>

領域別、問題形式別のどちらも大阪府と全国の平均正答率を下回っている。また、短答式問題の結果から4分の1以上の生徒に基礎知識の定着について課題があると考えられる。特に「数と式」「関数」の領域において理由や方法を記述する問題では、大阪府や全国と比較して正答率はあまり変わらないが、無解答率が大幅に上回っている。しかし、自分の意見を数学的言語を用いて表現する授業の成果もあり、授業内で類似した課題が出ていたものに関しては考察することができている。このことから、問題文や状況から推測はできるが、言語や式に直す過程に課題があることがわかる。小テストを継続し、問題演習などで知識や基礎の定着を行う。また、ICTを効果的に活用することにより、説明時間を短縮し、言語・協働活動の時間を確保する。数学的に表現する活動では、生徒が学習者端末を利用する場面を設定する。

<理科>

得点分布は全国・大阪府よりやや左寄りになっており、4問正解が最も多く分布している。領域別平均では「エネルギー」「粒子」の得点率が「生命」「地球」の得点率に比べて低く、いわゆる一分野的な問題に対する適応力の低さが見られた。「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の観点について、両分野とも全国・大阪府の平均を下回った。また、記述式問題に関しての正答率が他の問題形式に対して低く、出された課題に対して分析、考察し、条件に応じて表現することについて課題が見られる。小单元ごとにプリント学習を必ず実施し、基礎学力の定着に努めた。生物分野において視覚的に学習したほうが効果的な内容に関して、電子黒板とパソコンを活用し授業を展開していく。化学分野においては、教科書等々に紹介されている実験を教室演示を含め行っていく。力学分野において、補助教具を活用し、体感して学習できるように工夫する。

3年 チャレンジテスト結果

【成果と課題、今後に向けて】

国語

知識及び技能分野に関しては大阪府平均に近い得点である。思考・判断・表現分野においては大阪府平均を大きく下回る結果となった。短答式問題と比較して記述式問題が平均を下回ることとなった。鑑賞文を読み手の立場に立って書き換える問題など、記述式問題に対応ができていなかった。本文の語句を用いて問いに答えるだけではなく、相手に伝わるように工夫して記述する練習が必要である。また、鑑賞文をはじめとするあらゆるジャンルの文章に読み慣れる機会を設けることが求められる。

社会

観点別評価の思考・判断・表現の平均点及び問題形式別平均点で、大阪府の平均点に近づいた。しかし、観点別評価の知識・技能の平均点が、大阪府の平均点を大幅に下回っている。地理的分野、歴史的分野ともに知識を定着させる必要がある。記述式の問題では無回答率が高いため、資料から読み取った情報をまとめ説明する学習も必要である。

数学

平均点については昨年度よりも大阪府平均に近づいた。得点分布については昨年度とほぼ変わらず、50点から60点の範囲が低く、25点から40点に偏りがみられる。「短答式」である数と式の計算では正答率が大阪府平均よりも高い問題もある。しかし、記述式は正答率、無回答率ともに大阪府平均を大幅に下回っている。1・2年生の図形や立体の範囲について、知識が定着していなかった部分での無解答率が高くなる傾向があった。選択式や記述式は曖昧な知識や読み取りのまま解答していることがわかった。図形分野の知識を振り返ることや、数学的な思考と表現について課題が見られた。

理科

得点分布は大阪府よりやや左寄りになっており、45点～49点が最も多く分布している。領域別平均点の「生命」の得点率が24.1%と大阪府の平均正答率を上回っており、またほかの観点と比べて高くなっている。「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の観点についての両分野とも大阪府の平均をやや下回った。「記述式」の正答率が「選択式」や「短答式」に比べてやや低く、出された課題に対して分析、考察し、条件に応じて表現することについて課題が見られた。

英語

観点別評価の思考・判断・表現の平均点は大阪府の平均点に近づいた。また、問題形式別平均点では記述式の問題に対して無解答率が大阪府平均より低いものが多い。長文読解が弱く、問題を読み取ることや、自分の考えを英語で伝える項目に課題がある。40点以下に分布する割合が多く基礎基本が定着していない生徒が多いため、語句の小テストや単元テスト等で学習の定着を図る。また、教科書以外のまとまりのある文に触れる機会を増やし、読解力と既習の表現を用いてまとまりのある英文を書く力を伸ばしたい。

大阪市英語力調査 (GTEC) 3年結果

【成果と課題、今後に向けて】

4技能中、ライティングとスピーキングは大阪市平均を上回っていた。リーディングとリスニングにおいても市平均と僅差であった。総合点では大阪市の平均が459.4点のところ本校においては460.9点で1.5点上回った。発信技能の中でも特に、ライティングの力が高かった。

リーディング

帯学習として毎時間短い物語を速読できるよう時間を決めて行った。教科書のreadingパートでは大意を掴むよう指導した。その結果、大阪市には0.9点届かなかったが、全国平均より2.7点上回っていた。短い簡単な文章を意味のまとまりごとに読む力についてはついてきているが、少し長めの英文になると短時間で大意を理解する力が弱い。WPMの語数が少ないので、多読の指導を段階的に取り入れ、精読との違いを指導した上で読解力を高めていく。

リスニング

定期テスト以外でも授業中に適宜リスニングテストを行い、C-NETとの授業では英語の指示を聞き取って理解するよう促し、普段からリスニングの機会を増やした結果、大阪市平均より0.1点足りなかったが、全国平均より1.3点上回った。写真やイラストをもとに説明した短文を聞き取ることはできているが、同じような場面であっても、英文がまとまりのあるものになると必要な情報を聞き取ることが苦手である。イラストを見て状況を整理する力をつける必要がある。

ライティング

新出表現や文法を学習した際は、例をもとに自分のことに置き換えて短文を作る時間を設け、定期テストには観点別の問いとして自己表現の問題を必ず取り入れた結果、大阪市平均より0.7点、全国平均より0.1点上回った。A2レベルの生徒も多く無回答率は20%以下だった。しかし使える語彙や文法が限られている生徒も多くいることがわかった。文章を書くときに、テーマに沿った内容から逸れることなく文の流れや構成を考えてまとまりのある英文を書く力を伸ばしていく。

スピーキング

C-NETと連携し各学期に1度は1対1のインタビューを行った。学年や学期で質問などの難易度を変え、即興で相手に自分の考えを伝える練習をした結果、大阪市平均より2.2点、全国平均より2.6点上回った。4技能のうち最も市平均より上回っていた。しかしCEFR-JはA1.1とA1の中では低かった。なじみのある質問に対して答えることはできるが、質問に対して即興で答える力が乏しい。出題意図から外れている応答もあることが分かった。今後はよりたくさん場面を設定してペア、グループでディスカッションやディベートなどを行っていく必要がある。

2年 チャレンジテスト結果

【成果と課題、今後に向けて】

国語

漢字の小テストをほぼ毎時間行ったことで、漢字を読むことに対する問いの正答率が高かった。また、発表や話し合う時間を多く取り入れたことにより、スピーチの問題にも一定の成果が見られた。しかし、記述式の問題が大阪府の正答率と比較すると大差で下回っていることがわかった。話し合いを中心に授業を進めていたが、問題演習も取り入れ授業改善をする必要がある。

社会

毎時、授業の復習を行うことで、知識の定着を図ることができた。しかし、大阪府と比較すると無回答率が10%を超える問題が非常に多く、短答式や記述式の問題で顕著に表れていた。自分の言葉で表現する活動を増やし、応用、発展的な課題や問題を取り入れていく。

数学

知識技能の計算分野では大阪府の平均を上回ることができている。また、毎回の班活動で協働学習をすることで、数学が苦手な生徒の理解度を上げ、全体として大阪府の平均点を超えることができた。関数の分野に苦手意識をもつ生徒が多く、また無回答率も50%を超えている問題が多くあった。記述式の説明を要する問題に対しても同様であった。習熟度別授業等で、関数分野の基礎基本を振り返っていく必要がある。

理科

週に1度小テストを行い基礎基本の定着を図るとともに、様々な現象を理解するために、デジタル教科書を効果的に活用することで、自然現象に対する生徒の興味関心が高まっている。しかし、どの領域も大阪府の平均正答率を下回っていることから、効果的な小テストの実施や知識・技能を活用する課題を考え、生徒の話し合い活動等を多く取り入れていきたい。

英語

授業で多くリスニング練習を取り入れたことや、年間13回実施したC-NETの授業に積極的に取り組んだことにより、「聞くこと」の正答率が高かった。分割授業になり、ほぼ毎時間の始業時に簡単な読解練習を行っているので、「読むこと」にも慣れつつあるのではないかとと思われる。平易な英文読解には慣れつつあるが、表やグラフを読み取りながら長文を読み解くような問題では誤答が多い。これから少しずつ、やや難解な英文に触れて、読解のコツをつかめるように指導していく。

1年 チャレンジテスト結果

【成果と課題、今後に向けて】

国語

知識・技能については大阪府の平均正答率と大差はなく、週1回漢字プリントを宿題にし、テストに出題・確認したことや、单元ごとに題材について感想を書かせることで、内容把握と書く力の基礎をつけたことが成果として表れている。今後も、基本的な知識を身につけさせた上で、記述式の問題に対応できるように、内容把握や文章を書く取り組みを増やしていきたい。

数学

平均無回答率は大阪府と比較すると下回っており、基本的な計算問題などを繰り返し演習し、生徒同士での学びあいの場を多く設定したことで、数学が苦手な生徒でも問題を解こうとする姿勢が身についているのを見てとれた。基本的な知識・技能が身につけていても、それを活用する問題や記述式の問題が苦手な生徒が多いため、より深い学びができるような課題への取り組みを増やしていきたい。

英語

授業でICT機器を使って音声を何度も聞いたり、CNETの英語の指示に慣れることで、「聞くこと」の力が少しずつついてきている。しかし、「読むこと」や「書くこと」の領域においては、大阪府の平均正答率を下回っている。未習の語があってもまとまった文の概要をとらえる力を身につけさせる授業改善をしていきたい。また、自分の意見を英語で書くことができるように、短文形式に慣れさせてからまとまりのある英文を書くことができるように指導していく。

1年 チャレンジテストPlus結果

【成果と課題、今後に向けて】

社会

授業ごとに学習内容の「まとめ」を書かせるようにしたことで、簡単ではあるが自分の言葉で表現する力がつきつつある。知識・技能の観点別問題では大阪市の平均を少しではあるが上回っており、毎授業の復習の帯活動の成果が見てとれる。記述式の問題の正答率が低く、無回答率も高いため、今後の授業において生徒間の対話的な学習を工夫していきたい。

理科

大阪市の平均正答率を2ポイント上回っている。授業で映像や生の教材を用いて説明することを心掛けているため、基礎問題と説明問題に関しては正答率が他問題と比べて高かった。しかし、金属の性質を利用した製品の選択や、実験を行う際の注意点などの応用問題の正答率が低かった。習得した内容を活かす問題に課題があるため、今後は生徒主体で話し合い高め合う、学び合いの時間を積極的に取り入れていく。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査2年 結果

「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」や「保健体育の授業は楽しいですか」の質問に対する肯定的な回答は、男女ともに全国及び大阪府と大差はない(男子87.5%、女子79.7%)。運動部に所属している生徒の1週間の運動時間の平均は全国を大きく上回っているが、部活動以外で放課後や休日に運動やスポーツをする生徒の割合は全国及び大阪市を下回っている。このことが体力・運動能力の調査結果にも反映していると考えられる。学校の授業や部活動以外で生涯スポーツの観点から、運動やスポーツに自主的に親しむことのできる生徒を育成していく必要がある。

【成果と課題、今後に向けて】

男子:体格は全国や大阪市の平均と比較し大差はないが、いずれの項目も大阪市の平均を下回っていた。特に長座体前屈や20mシャトルランの平均値が低かったため、今後は授業時間における生徒個々の運動時間をこれまで以上に十分確保し、運動能力の向上を目指していく。また、柔軟性を高めるために、静的ストレッチを工夫して取り入れていきたい。

女子:体力合計点が全国及び大阪市と比較し3ポイント以上上回っている。今後も引き続きさらなる体力・運動能力の向上を図る。また、生徒同士の協働を通して、コミュニケーション能力を高め、運動することについての意欲向上に繋げていく。心身ともに健康で、生涯にわたって運動に慣れ親しむ生徒の育成に努める。